

霞ヶ浦水質浄化に関する陳情書をめぐって

霞ヶ浦の水質浄化に関する陳情書

現在霞ヶ浦で進められている「霞ヶ浦総合開発計画」(参考資料一)は、「水と緑と人間集団の調和」を基調としながら、秩序ある地域開発を推進することを目ざして立案されており、しかしながら、現実にはこのような総合開発計画の基本精神はほとんど生かされておらず、水質保全のための必要かつ適切な処置はまったく実施されず、自然環境の保護はかたすみに押しやられ、ただ各種産業の振興のための利水及び治水計画のみが非常な勢いで進められつつあるのが実状です。

このため、湖の水質は年々悪化の一途をたどり、水は腐り、魚は死に、政府の定めた環境基準(参考資料二)によれば、工業用水二級の水質をもはるかに下まわる状況にまで陥っています。

土浦の自然を守る会は昨年十月、土浦市民二二六〇名を対象に、飲料水に関するアンケート調査を実施いたしました。その結果によれば、水道水利用者の七五・五%が飲み水に不安を抱いており、更に市街地のみに限ってみるとこの値は八五・二%にも達することが判明しております。

日々の生活に欠かすことのできない飲料水に対して人々がこれほど大きな不安を抱いているということは、極めて重大な事態ではないでしょうか。

霞ヶ浦水道事務所では、汚染した水に莫大な量の薬品を投じて処理した後、深井戸より汲み上げた井戸水を大量に混じて一般家庭へ供給していましたが、最近の湖の汚染は水道水に井戸水を混じてごまかすというような安易な方法ではとても追いつかず、これまでの大岩田地区の水道用水の取入口を美浦村沖に移転する計画をすすめております。